



川中西小学校 はっらっ ラジオ体操澆刺隊

今回のまちなりの主役は、第6回全国小学校ラジオ体操コンクールで約570チームの応募の中から、全国2位となる銀賞に輝いた二代目川中西小ラジオ体操澆刺隊を紹介します。



▲指先や体幹を意識し、動きをそろえて体操を行います。

ラジオ体操が
小学校と
地域をつなぐ

全国一位を目指して

川中西小学校の朝は、ラジオ体操から始まります。子どもたちが集まるグラウンドで前に立つのが、二代目川中西小ラジオ体操澆刺隊です。メリハリのある美しい所作で、手本を見せます。

一昨年にかんば生命特別賞を受賞した初代を引き継ぎ、昨年の6月に6年生の有志を募り、二代目澆刺隊を結成。全国1位を目指して練習をスタートしました。DVDや動画をみんなで何度も視聴

し、正しい動きを覚えめました。互いの動きを見合ったり、タブレットで撮影して動作を確認したりして精度を高めます。また、毎朝学校のラジオ体操の手本役として、全校児童の前に立つことで集中力を高めてきました。休み時間も自主的に集まり、夏休みにも練習を重ねました。

コンクールは、応募した動画の審査により順位が決定します。隊の結成から約1カ月半後、メンバーは心を一つにして、5分の動画撮影に挑みました。コンクールの推奨人数は20人以下で、大人数では動きがそろいにくく、不利と言われる中、同チームは32人でのエントリー。約570チームの応募の中から見事、全国2位の銀賞に輝きました。

メンバーの前村さんは「夏休みは暑かったけれど、みんなで取り組んだので頑張れたし、つなが





まちかどボイス

今月のテーマ
令和2年、頑張ること



◀表彰式の前後で、NHK テレビ・ラジオ体操の幅しげみ先生のピアノ演奏のもと、岡本美佳先生、五日市祐子先生に正しいラジオ体操の講習を受ける皆さん。



▶澄川昌男校長。「ラジオ体操を通じて、児童に生き方を学ばせたいと思っています」

ている感じがしました」。山川さんは「うれし過ぎて信じられなかったけれど、徐々に実感が湧きました」と目を輝かせます。

学校と地域をつなぐ

澄川校長に、ラジオ体操の魅力について伺いました。「ラジオ体操には、3分30秒、13の運動の中に人が健康を維持するために必要な要素が入っています。また、場所・時間を選ばず、お金を掛けず、誰でもできる運動です」。同校ではラジオ体操を地域貢献の柱と位置づけ、地域の方にも、毎朝の参加を呼び掛けています。「ラジオ体操は皆さんご存知ですし、健康にもいいので、地域の方も参加しやすいと思います。学校と地域の皆さんをつなげる上でも、非常に

有用なものだと考えています」と澄川校長。「地域の方が早朝から学校に来られることで、登校時の見守りにもなります。今後は、さらに参加される方を増やしていきたいです」

子どもたちの地域貢献

同クラブは、地域のイベントにラジオ体操で出演することもあります。「地域の催しに参加することで、自分が地域の役に立てているという実感を得て、自己有用感を高めているように思います」と澄川校長。今後さらさらこの活動を推し進め、来年度も新たなメンバーの小領君は「ラジオ体操で下関を元気で長生きできる街にした」と話してくれました。

編集後記

- 特集のため、いろんなお店でくじら料理を食べ、行く先々のスーパーでくじらをチェック。くじらは縁起物なので、いいことが起こりそうです。(き)
- 昨年5月にスタートした「次世代ヒーロー」(26頁)。下関には素晴らしい若者がたくさんいることを実感しています。このまちの未来は明るい!!(わ)
- 夏休みに嫌々していたラジオ体操がこんなに奥深いとは！小学生からラジオ体操に目覚めていたら、もっとまともな小学生になれたかも。(ひ)